

小さな命を考える会

2012. 10. 1～10. 12 「小さな命の写真展」を開催いたしました。
写真展の様子を見た学生たちの気持ちをブログに書き綴ってあるので、是非、
ご覧下さい。

私が写真を見て最初に湧き出た感情は「悲しい」でした。
可哀想とか、犬を捨てた人に対する怒りではなく、ただ「悲しい」でした。

虐待されて目や足がないワンちゃん。
寂しそうな目で何かを訴えているワンちゃん。
まだ自分達の運命を知らない子猫ちゃんもたくさんいました。
殺処分されて燃やされていくワンちゃんの写真は衝撃的でした。

毎日、写真に載っていたようにワンちゃん、ネコちゃんがどんどんと殺処分されていくのが今の現状です。
私達が普段見ているワンちゃん達は、とても平和に暮らしています。その一方で、あのよう
に虐待されたり捨てられたりするワンちゃん、ネコちゃんがあります。
どちらも同じ命にかわりありません。
大切な命です。
死んでもいい命なんてないのです。
死んでもいい命なら産まれてくる必要がないはずです。
私達人間と同じようにワンちゃん達も生きたいと望んで生まれてきます。
ワンちゃん達にだって幸せを感じる瞬間があつていいはずです。
私達と同じように夢だつてあるかもしれません。
そのワンちゃん達の未来を絶ってしまう。
しかも人間の手で。こんなに悲しいことがあるのでしょうか。

保護施設に入れられてしまったワンちゃん、ネコちゃんは、捨てられたり虐待されていま
した。
捨てるくらいなら、虐待するくらいなら・・・そのワンちゃん達をこの世に産むべきでは
なかったと思います。
ワンちゃん達は命です。道具ではありません。
叩かれたら痛いし、捨てられたら寂しい、悲しいのです。私達人間は、もっとひとつひとつ

つの命の重みを知らなければいけないと思います。

人間は虐待があったり、殺人事件があると大きく報道されます。

でも、ワンちゃん達は、何千、何万頭が殺されてもニュースになることはありません。影で大切な命が消えていくことを、もっとたくさんの人に知ってもらいたいです。そして考えてもらいたいです。どうすれば悲しい命がなくなるのか。

小さなことで悲しい命はなくなっていくます。飼いきれないほどの数を飼育しない。飼育出来る環境が整っていなければ無駄に命を産まない。

それをみんなが、していけば悲しい命は減っていくのではないのでしょうか。

命あるもの、愛情が必要だと私は思います。思いっきりワンちゃん、ネコちゃんを愛せないならばワンちゃん、ネコちゃんを飼わないでください。途中で捨ててしまうなら飼わないでください。

悲しい命を減らすのも増やすのも私達次第です。

こんな下手な文章から、少しでも何かを感じていただければ幸いです。

ワンちゃん、ネコちゃんの明るい未来をみんなで作っていきたく私は思っています。

美容科 あず

この間、詳しく犬猫の殺処分について知りました。

自分も多少の知識はあったのですが、自分が知っていた内容は、まだまだ、なんだなと実感させられ、この学校に入った理由の1つでもある、どうしたら犬や猫達が幸せに過ごせるかを考えさせられる内容でした。

犬の場合は、犬の中の才能を切り開くのも1つの幸せだと思いますが、私が1番幸せだと思うのはやっぱり大好きな飼い主と最後まで一緒にいることかなと思います。

最後の時も大好きな飼い主に名前を呼ばれながら、触ってもらって見送ってもらえるのが幸せなのかなって思いました。

幸せな子を増やしていくにはどうすればいいのか、私の中の課題です。

1人の力では出来ないこともみんなが力を合わせれば不可能も可能になりますし、今自分

が出来ることからやっていきたいと思います。

訓練科 とっちゃん

内容は、現実で起こっている犬や猫の悲惨な姿が写真に納められていました。

それを朝に見たのでその日は、悲しい気持ちで授業をしました。

正直、なんでこんなことが起きちゃうのか信じられませんでした。

「小さな命」って言っているけど体の大きさや見た目が違うだけで命に大きいも小さいもないと思います。

言うことを聞かないから捨てる。

こんなはずじゃなかったから捨てる。

育てるのが大変だから捨てる。

そんな人間の勝手な理由で年間何十万頭が殺されていく。

それを無くしていくには、何をしたらいいか。考えさせられました。

実際、今の自分には、何もできません。

だから、今、学校で扱ってる犬たちとしっかり向き合って、キレイにケガなく犬たちを扱っていきたいです。

美容科 ちづる

私は、写真展をみて悲惨さや人の残酷さを改めて感じました。

人が小さな命を奪っているのだから悲しいとは思ってはいけないのかもしれないけれど、身を引き裂かれるくらい悲しくなりました。

何もできない自分が、ただただ悔しいです。

動物の命を救えるのも奪うのも人間で、その小さな命を救うのとは別に自分の欲のために使うのも人間です。

欲のために小さな命をつくったり奪ったりするのはいいことではありません。

でも、その勝手なことをしている人を見て見ぬふりをすることも決していいことではありません。

こんなことを繰り返さない為には、一人一人の意識が大切で少しでも多くの命を救える環境が必要だと思います。

綺麗ことなのかもしれないけれど、一人の思いや意識で変わると私は信じてます。

これから先、私は今よりももっと視野を広くもち、いろんな活動に参加して少しでも多くの命を救いたいです。

そして、人と動物が互いに苦ではなく、幸せに暮らせる世の中に、少しでもはやくなることを心から願っています。

美容科 ゆり

学校で貼られてた写真を見てすごく心が痛くなりました。

ペットが増え続ける一方で、飼い主が見つからず殺処分で命がなくなってしまう事実を改めて、よく知る事ができました。

一匹でも多くのペットがそうならないように願うばかりです。

これからペット業界に入る私も、これを忘れることなく、しっかりと頭にいれ、今、自分ができることをしっかりとしていきたいと思います。

美容科 かなちゃ

ある朝、学校に行くと、掲示板に保健所にいるワンちゃんと虐待されたワンちゃんの写真が、心が痛むような文章と共に掲載されていました。

どの写真も目をおおいたくなるものばかりで、涙が出そうになるのを必死でこらえました。

虐待された犬たち…。

どんなに怖かったか、痛かったか…。

私は、動物が大好きです。

だから、動物に嫌われることが一番怖いんです。

このブログを見てくださっているみなさんの中に、または周りに、虐待をしたことがある方はいますか。

どうして虐待をしてしまうのでしょうか。教えてください。

私は将来、動物業界で働きたいと思っています。だからそんな方達の気持ちも知りたいです。

美容科 さき

写真を見たとき、可哀想や酷いと思うよりも、どうしてだろうという思いが先に来ました。

小さくても命。物なんかじゃないし、動く人形でもなく、生きています。

だからなぜ、虐待したり、捨ててしまったり、殺してしまうようにするのか。私は、正直理解ができません。

でも、写真を見て、考えて、自分が理解できないから関わらないのではなく、これから動物の仕事をしていくからこそ、どうしたらいいのか考え、関わっていかなければならないんだと思いました。

今は、何をすればいいのかは分かりませんが、楽しく幸せに暮らしている子達がいるなかで、つらく寂しく死んでいかなければならない子達もいることを絶対に忘れずに、一匹でもそんな子達が少なくなるように私に出来ることを見つけていきたいです。

美容科 金礪

私は、あの写真展の写真を見て、正直、見なければよかった。と思いました。

でも、ペット業界に務めるということは、あの写真展のワンちゃん達のような光景を一度は、目にすることになると思います。

ペットブームがうんだ最悪な結果だと私は思いました。

病気がある子犬、手足が不自由な犬、その他、障害を持って生まれてきてしまった子。売り物にならないから、病院に連れていけないから、人間の理不尽な理由でワンちゃん達は、信じていた飼い主に裏切られ、一生あの冷たい部屋で死ぬまで過ごさなければならない。

人間の勝手が招いたことなのに、何千頭もの命が、簡単に捨てられて行く。

世話が出来ないなら飼わないことも必要。その言葉が、ものすごく当てはまると思いました。

一生をかけた飼える保証がある。

愛してあげられる保証がある。

そういう人達が、飼うべきだと思います

だから私がペットショップに務めたら、必ず、お客様に、家の広さや必要なお金など、細かく聞きたいと思います。

そして、一匹でもいいから命を捨てられないように考えて行動していくことも必要だと思いました。

美容科 ぱんちゃん

この前まで学科室に貼られていた殺処分の写真を見て改めて現実を感じ、とても胸が苦しくなり涙が止まりませんでした。

何の罪もないたくさんのワンちゃんやネコちゃんの命が、簡単に失われていると思うと、とても辛くてたまりません。

なぜ、ワンちゃんやネコちゃんと最後まで一緒にいれないなら飼うのか、そんなことをするなら最初から飼わなければいいのにと感じてしまいました。

もっと、人は動物のことを考え一つ一つの命を人と同じように大切にすべきだと思います。

また、飼うなら最後まで責任を持って飼うべきだと思います。

どんな就職先に就きたいか、まだ、決まっていないけど、もし、ペットショップなどに就いたらワンちゃんやネコちゃんたちの為にも、最後まで幸せに育ててくれる飼い主さんを見つけてあげたいと思いました。

私は、家でワンちゃんとネコちゃんを飼っているので、今まで以上に、これからはもっと愛情を捧げ一日一日を大切に過ごしていきたいと思います。

美容科 まや

写真を見て私は、最初に“かわいそうだな”と思いました。

動物が、好きな人ならみんな同じようなことを思うだろうと思います。

しかし、人それぞれ考え方が違うので不幸な犬や猫を見て可愛そうと思わない人もいるかもしれません。

そういう人に出会った時、どう接すればいいのか考えることも、この先、犬や猫に関わる仕事をしていく中で必要だと思います。

また、不幸な犬や猫を可愛そうだと思うだけでは、その子達を救うことは出来ません。

たとえ自分に出来ることが小さなことでも少しずつ積み重ねて一匹でも多くの犬や猫を救いたいです。

美容科 えむ氏

皆さんは「犬と猫と人間と」という映画をご存知でしょうか。

その映画は、日本における犬猫の殺処分の現状をドキュメンタリーにしたものです。

見てください。

現実から目を背けないでください。

捨てられた犬や猫が、その後どうなるのか知ってください。

小さな子犬や子猫だろうと処分せざるを得ない状況を作ったのは、私たちなのです。

毎日毎日たくさんの命が、人間の身勝手によって消されているのです。

私にできること、あなたにできること…

たくさんあります。

その第一歩が、現状を知ることだと思います。

そこから始めましょう。

そして、犬や猫のために何が出来るか考えましょう。

同じ思いを持つ人はたくさんいます。

一人一人の力は弱くても、たくさんの人が集えば大きな力となります。

私たちの手で殺処分0を実現させましょう。

美容科 星空

殺処分を知ったのは、小学生に読んだ「deeplove 特別編 パオの物語」からでした。

その本の話で私は、人の身勝手さや無責任な行動で死んでゆく犬たちの様子や死に様が生々しく書かれていました。

内容を知っている中で写真を見た瞬間、私はその話を思い出しました。

ですが、そこには飼い主を待つ犬たちの希望を持った目がそこにはありませんでした。

飼い主に対しての怒りよりも犬たちへの不当な死に方やその後の処理に向けようのない怒りや悲しみが芽生えました。

そんな不当な命の絶ち方をする犬たちを減らすために私が思うやるべきことは、飼う以前に自分が飼えるかどうか、最期まで世話することができるかをきちんと家族と話して決めることを飼いたいと思う人たちに呼び掛けることです。

飼っている人には、何で悩んでいるのか困っているのかを聞いてあげることです。

犬を買う人には悩みやわからないことが沢山あります。

ですので、そのことを親身になりアドバイスできるのは動物関係の仕事に携わる人や知識を持っている人です。

犬などの動物を飼うことは辛いことだけでなく、学ぶことや楽しいことも沢山あるので、そのことも教えてあげられたと思います。

訓練科 あっすー

保健所の様子の写真が学校に掲示されていたのですが、殺処分の事や虐待されたワンちゃん等の写真を見ても心が痛かったです。

今、学んでいる動物愛護についても深く考えさせられました。

毎年、多くの犬や猫が殺処分されている現状で少しでも減らす事ができたら良いです。

何か私たちにできる事がないか、よく考えたいと思います。

美容科 みなみ

最後まで、読んでいただきありがとうございました。

一人一人考え方は違うかもしれませんが、今の動物達の現状を知り、私達の気持ちを少しでも理解していただければ幸いです。

私達は一人一人では微力です。

しかし、一人でも多くの「小さな命を考える人」と力を合わせて、一頭でも多くの動物たちを幸せに出来るように、少しずつではありますが、出来ることから行動を起こし頑張っていきたいと思っております。

いばらき動物専門学院 学生一同